

お店紹介 豊岡商店

あい川支部・豊岡由美子さん

日の出町25-14 ☎06-6381-92801

お客さんに家族のようにならされて

昭和45年、たばこ屋さんを開店、豊岡さんは3代目になります。もともとデパートの店員をしていましたが、結婚後、専業主婦で子育てに専念し、次第にお店を手伝うようになりまし。平成9年、お義父さんが、済生会吹田病院の患者さんも来店できるようにと店内を車椅子でも買物ができるように整備しました。商品の陳列も丁寧にされています。お義父さんから学んだことは、帳面をきっちりつけることです。1月から2月になると、「民商に行っておいで」と学習会への参加もすすめられたそうです。

平成24年に事業主としてお店を引き継ぎました。その時は、「長年続いたこのお店をつぶしたらあかん、守っていきたい。」その一心でした。デパートの店員を経験していたので、お客さんとの関係はスムーズに行きました。それでも、たばこ税や消費税の増税の影響で売上が下がり、不景気な状況が続いていますが、そんな不安を吹き飛ばしてくれたのが地域のお客さんです。「お義母さん最近見ないけど元気にしてはる?」「ひさしぶりやなあ」など、家族のように声をかけてくれることが本当にうれしくて支えになったそうです。サラリーマンをしているご主人は、帰宅後もいろんな相談にのってくれるそうです。

お客さんから「お酒はおいてないの?」とよく聞かれ、それならと、先月、お酒が販売できるように申請をしました。また、若い方たちにも来店してもらるように、雑貨の販売も検討中です。近くの会社員の方のために、お弁当の販売もしています。「この道筋は、お店がないから助かるわ」と好評です。

豊岡さんは「民商ではエクセル会計を学習して、今でも使っています。今、事業計画書作成連続講座に参加していますが、皆さんの言葉がわかって、その意味がわからず、ついていくのに必死ですが、いい勉強になっています。」と、いつもの明るさで語られていました。



府政もかえようと

750名が大集合

28日、メイシアター大ホールで開催した「府政もかえよう 吹田市民大集合」に摂津からの参加も含む750人の市民が集まりました。

リレートークでは、トップバッターに咲洲高校OBが登壇、「定員割れの高校はいらない」という松井知事・大阪府のやり方は許せない。なんとしても府立高校つぶしを止めたい、と訴え。続いて、新婦人の3人のこどもを持つお母さんは、「維新は教育費を削り、カジノをつくろうとしている。これは、子どもの教育費を削ってお父さんのギャンブルのお金を捻出するのと同じこと」と痛烈に批判。子を持つ親の間でも、維新はひどいという声が高まっていると報告されました。済生会千里病院労組からは、「救命救急の補助金については協議すると言っていたのに、なんにも相談なく橋下知事時代に3億5千万円が削減された。地域医療の為に復活を」と訴えられました。

反維新の候補者を紹介するDVDも上映され、候補者の人柄を知ることができました。

集会には、平松邦夫元大阪市長が駆けつけて「選挙に勝てばなんでもできるといって維新政治には任せられない」と力強く訴えられました。最後に府明るい会の前田事務局長から情勢報告がありました。

新しい大阪府政実現に向けて

街頭宣伝行動・宣伝カー運行

11月3日の文化の日、午前中に工藤会長、午後は中央・あい川、吹南の3支部が合同で反維新府政のスポット宣伝を行ないました。工藤会長は商工新聞読者のお二人と千里丘地域を回り13か所で新しい府政への転換を訴えました。スパーの前では、工藤会長の知り合いの方が手を振って応援してくれました。中央・あい川・吹南の合同宣伝には村上さん、岡崎さん、本郷さんが参加。20か所で宣伝し、こちらも南吹田5丁目女性の方から「今度は大変やけどがんばって」と応援をいただきました。

民商の宣伝カーも10月31日から反維新府政の宣伝で吹田市内を走りました。31日の昼に運行した村山さんは「あちこちで手を振ってくれる集団がいた。これだけ良い反応が返ってくるのは初めて」と反応の強さを感じていました。11月2日に運行した竹田さんも「商店街で大阪維新の会の宣伝カーとすれ違ったが、自分の方を指さして応援してくれた方がいました。」と好反応を実感しています。



商工新聞は経営のヒント・ヒントの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましょう
会費集金は会員の心をあつめる活動です 毎月10日までには集めましょう